

第2学年3組 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

平成28年11月4日(金)第5校時

授業者 教諭 黒田 鈴

2年3組 男子17名・女子17名

計 34名

1 題材名 賢い消費者になろう

家庭分野 D 身近な消費生活と環境 (1) ア、イ

2 題材について

(1) 生徒観

本校はさいたま市北部の大宮区に位置している。大宮駅から近く、商業施設が集まる、生活に便利な地域にある。今年創立70周年を迎えた。生徒たちは、落ち着いて毎日の生活を送っており、学習においては、さまざまなことに興味、関心をもち、積極的に取り組んでいる。家庭分野の授業においては、考える場面では落ち着いて考えをまとめ、発表の場面では明るく活発に取り組んでいる。

本校の生徒は、自分の好みや流行によって商品を選択しており、商品の素材や品質、生産地などの情報を集め、他と比較・検討して選択をしてはいない。購入については、ほとんどが店舗販売を利用しているが、無店舗販売を利用する生徒も少なくない。また、支払い方法については、即時払いや前払いがほとんどである。

消費者トラブルに関しては、身近に起きていることを知ってはいるものの知識はほとんどなく、自分が被害者になる可能性があると考えている生徒は少ないのが現状である。

(2) 題材観

本題材は、中学生の身近な消費行動を振り返ることを通して、家庭生活における消費の重要性に気付き、消費者の基本的な権利と責任について理解を深めるとともに、物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができるようにすることをねらいとしている。

現代社会においては、生活を営むために、生活に必要なものの多くを商品として購入することでまかなっている。物資だけにとどまらず、サービスまでも商品として購入しており、2015年の総務省の家計調査によると、家計の支出のうち、サービスへの支出が占める割合は4割超となっており、家計に占めるサービスへの支出割合は年々上昇している。現代の生活では「物を買う」ことだけが消費生活ではなくなっている。

また、商品の多様化とともに、販売方法・支払い方法も多様化している。商品、販売方法・支払い方法の多様化により、生活が便利になると同時に、フィッシング詐欺や架空請求、カード払いによる利用額の超過などといった問題が増え、注意を払わなければならない点も多くなっている。消費者自身が商品の情報を収集し、それぞれの販売方法・支払い方法の長所と短所を理解し、適切に選択していくこと、消費者問題やそれに伴うトラブルを知り、回避する能力を身に付け、よりよい消費生活を送ることができる技能を身に付けさせたい。

(3) 指導観

自分の生活を振り返り、消費生活のしくみについて気付かせるとともに、課題を発見させ、少しでも努力して改善していくことで、これからの将来の生活は大きく変わってくる。その価値に気付かせることができれば、更に意欲が増し、様々な場面でより深い学びに広がっていくと考える。日々の生活で必要なものに対する意識を高め、ただ何となく消費生活を送るのではなく、主体的に商品や支払い方法を考えて選んでいく意識を高めていきたい。自分の置かれた立場や目的に応じて最適解を導き出し、自分や家族の生活をよりよくするための実践していく態度につながるよう、指導していきたい。

(4) 学校課題研究「確かな学力をつけさせるための授業改善の研究 ～五感に訴えるICTの効果的な活用～」との関連

消費生活に関する学習は毎日の生活に密にかかわる課題である。自分に身近な課題であるということに気付かせ、概念をしっかりと理解することが重要である。そこで、ICTを活用し、視覚的な情報をより多く生徒に与

えることにより、概念を共有化することができ、より具体的なイメージを持つことができる。

3. 題材の目標

身近な消費生活を振り返ることで、学習に対しての関心と意欲をもたせ、消費についての基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、自分や家族の生活に活用する能力を育てるようにする。

4. 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5. 小題材の指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	○目標 ・学習内容	学習活動に即した評価規準	評価方法
① (本時)	○消費生活のしくみを知り、適切に商品を選択する。 ・消費生活について知る。 ・商品とは何か理解する。 ・商品を選ぶポイントを考える。 ・商品購入までの流れを理解する。	○自分や家族の消費生活に関心をもって課題に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。 【知識・理解】	・ワークシート ・観察
2	○生活情報を活用する。 ・商品を購入するときに必要な情報について考える。 ・表示とマークについて知る。 ・商品の価格の決め方を知る。	○身近な販売方法や支払い方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○収集した情報を活用して商品の選択、購入及び活用について考え、工夫している。 【工夫創造】	・ワークシート ・観察
3	○商品の販売方法と支払い方法の特徴を理解する。 ・販売方法の特徴を知る。 ・さまざまな支払い方法の特徴を知る。 ・契約について理解する	○物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集し、整理することができる。 【技能】	

4	○消費生活のトラブルと、その解決方法を理解する。 ・消費生活のトラブルについて知る。 ・消費者トラブルに対する解決方法を理解する。	○消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。 【知識・理解】	・ワークシート ・観察
5	○消費者の権利と責任について理解する。 ・消費者のもつ権利と責任を知る。 ・消費者を支える仕組みについて知る。		

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

消費生活の仕組みを知り、適切に商品を選択する。

(2) 本時の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
自分や家族の消費生活について関心をもって課題に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。			物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。

(3) 本時の展開

学習 過程	○学習内容 ・学習活動	○教師のはたらきかけ ◆評価規準 ◇ 評価方法 △努力を要する生徒の指導の手立て ◎ICT の特徴と期待する効果	【】 教具等
導入	○学習課題の把握 ・自分の生活を振り返り、様々なものを購入して生活していることに気付く。 ・生活に必要なものを消費して生活する、消費生活を送っていることを知る。	○身のまわりのものをどのように手に入れたのか考えさせる。	
	学習課題：商品を選ぶポイントとはどんな部分だろうか。		
展開	○商品選択のポイント ・現段階で、自分が商品を選ぶ時のポイントを考え、ワークシートへ記入、発表する。 ○商品の種類 ・「生活に必要なもの」を考える。 ・生活に必要なものの多くは商品として手に入れており、「物資」だけでなく「サービ	◆自分や家族の消費生活について関心をもって課題に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。 【関心・意欲・態度】〈ワークシート〉 ○「生活に必要なもの」を自由に発表させる。 ○商品が「物資」だけではないことを生徒自身が気付くことができるよ	【ワークシート】

<p>まとめ 振り返り</p>	<p>ス」も商品であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活に必要なもの」を物資とサービスに分類する。 ・分類の結果から、サービスの割合が高いことに気付く。 <p>○消費生活の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金と物資・サービスが循環することによって、わたしたちの消費生活が成り立っていることを知る。 <p>○商品選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの学習をふまえて、もう一度考え、自分の考えをまとめる。 ・実際の商品の中から、自分のポイントを踏まえて商品を選択し、選択の理由と合わせて発表する。 <p>○本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ、感想の記入。 	<p>う、言葉がけを行う。</p> <p>○例を提示し、分類の基準を示す。</p> <p>○種類の多さだけでなく、使用する頻度や金額も合わせて考えさせる。</p> <p>◎視覚的な情報を全体に一斉に与えることで、概念を共有化し、より具体的なイメージを持たせる。</p> <p>○限りある資源を利用していること、消費生活により生き物や環境に負荷を与えていることを確認する。</p> <p>○本当に必要なものを購入するためには、情報を収集し、正しい商品選択をする必要があることを確認する。</p> <p>◆物資・サービスの選択、購入及び活用に関する知識を身に付けている。 【知識・理解】〈ワークシート〉 △学習の内容を振り返り、商品を選択する際に確認すべき部分を整理させる。</p> <p>◎タブレットPCを使用することにより、全体の意思・考えを把握し、クラスで共有することができる。</p> <p>○中学生という立場では、家族の労働により、商品を購入することができること、中学生も消費者であることを確認し、適切に商品を選択し購入しなければならないということを確認する。</p>	<p>【ワークシート、ホワイトボード、ホワイトボードマーカー】</p> <p>【PC、スクリーン、プロジェクター】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【PC、スクリーン、プロジェクター、タブレットPC】</p>
---------------------	---	---	---